

## 卓越大学院プログラム事後評価調書 プログラムの基本情報 [公表。ただし、項目12、13については非公表]

機関名	名古屋大学		採択年度	令和元年度	整理番号	1909
1	プログラム名称	情報・生命医科学コンボリューション on グローカルアライアンス卓越大学院				
	英語名称	Convolution of Informatics and Biomedical Sciences on Glocal Alliances				
	ホームページ (URL)	https://cibog.med.nagoya-u.ac.jp/				
2	全体責任者 (学長)	ふりがな 氏名 (職名)	まつお せいいち 松尾 清一 (国立大学法人東海国立大学機構・機構長)	※ 共同実施のプログラムの場合は、全ての構成大学の学長について記入し、申請を取りまとめる大学 (連合大学院によるもの場合は基幹大学) の学長名に下線を引いてください。		
3	プログラム責任者	ふりがな 氏名 (職名)	かどまつ けんじ 門松 健治 (名古屋大学・統括副総長)			
4	プログラムコーディネーター	ふりがな 氏名 (職名)	かつの まさひさ 勝野 雅央 (名古屋大学医学系研究科・教授・研究科長)			
5	設定する領域	最も重視する領域【必須】	②社会において多様な価値・システムを創造するような、文理融合領域、学際領域、新領域			
		関連する領域 (1)【任意】	①我が国が国際的な優位性と卓越性を示している研究分野			
		関連する領域 (2)【任意】	なし			
		関連する領域 (3)【任意】	なし			
6	主要区分	最も関連の深い区分 (大区分)	I			
		最も関連の深い区分 (中区分)	51	ブレインサイエンスおよびその関連分野		
		最も関連の深い区分 (小区分)	51030	病態神経科学関連		
		次に関連の深い区分 (大区分)【任意】	H			
		次に関連の深い区分 (中区分)【任意】	48	生体の構造と機能およびその関連分野		
		次に関連の深い区分 (小区分)【任意】	48040	医化学関連		
7	授与する博士学位分野・名称	博士 (医学)、博士 (看護学)、博士 (情報学)、博士 (創薬科学)、博士 (農学)、博士 (医療技術学)、博士 (学術)、博士 (リハビリテーション療法学) 追記 情報・生命医科学卓越大学院				
8	学生の所属する専攻等名 (主たる専攻等がある場合は下線を引いてください。)	名古屋大学医学系研究科 (医科学専攻、総合医学専攻、アデレード大学国際連携総合医学専攻、ルンド大学国際連携総合医学専攻、フライブルク大学国際連携総合医学専攻、総合保健学専攻)、名古屋大学生命農学研究科 (応用生命科学専攻)、名古屋大学情報学研究科 (情報システム学専攻、知能システム学専攻)、名古屋大学創薬科学研究科 (基盤創薬学専攻)、岐阜大学連合農学研究科 (生物資源科学専攻)、岐阜大学自然科学技術研究科 (生命科学・化学専攻)				
9	連合大学院又は共同教育課程による実施の場合、その別 ※ 該当する場合には○を記入			10	本プログラムによる学位授与数 (年度当たり) の目標 ※ 補助期間最終年度の数字を記入してください。	
	連合大学院		共同教育課程		15	
11	連携先機関名 (他の大学、民間企業等と連携した取組の場合の機関名)					
岐阜大学 (自然科学技術研究科・連合農学研究科)、生理学研究所、国立長寿医療研究センター、愛知県がんセンター、愛知県医療療育総合センター発達障害研究所、統計数理研究所、アデレード大学、ルンド大学、フライブルク大学、ミュンヘン大学、ノッティガム大学、モナッシュ大学、ボローニャ大学、香港中文大学、高麗大学校、ラクオリア創薬 (株)、ノバルティスファーマ (株)、田辺三菱製薬 (株)、(株) 島津製作所、オリンパス (株)、エーザイ (株)、住友ファーマ (株)、武田薬品工業 (株)、NVIDIA (エヌビディア合同会社)、CBmed、(株) 日立製作所、アステラス製薬 (株)						

[公表]

14 プログラム担当者一覧									※「年齢」は公表しません。
番号	氏名	フリガナ	年齢層	機関名・所属(研究科・専攻等)・職名	学位	現在の専門	役割分担	イポート(割合)	
1	(プログラム責任者) 門松 健治	カドマツ ケンジ		名古屋大学・統括副総長	博士(医学)	医化学	プログラム責任者・運営委員会委員	0.5	
2	(プログラムコーディネーター) 勝野 雅央	カツノ マサヒサ		名古屋大学医学系研究科・教授・研究科長	博士(医学)	神経内科学	プログラムコーディネーター・運営委員会委員長	1	
3	粕谷 英樹	カサヤ ヒデキ		名古屋大学医学系研究科・教授・副研究科長(評価・国際交流担当)	博士(医学)	国際医学教育学	運営委員会委員・国際連携担当	0.5	
4	久場 博司	クバ ヒロシ		名古屋大学医学系研究科・教授・副研究科長(大学院教育担当)	博士(医学)	細胞生理学	運営委員会副委員長・カリキュラム担当	0.5	
5	木村 宏	キムラ ヒロシ		名古屋大学医学系研究科・教授	博士(医学)	ウイルス学	運営委員会委員	0.5	
6	尾崎 紀夫	オザキ ノリオ		名古屋大学医学系研究科・特任教授	博士(医学)	精神医学、ゲノム医学	教育担当	0.5	
7	中村 和弘	ナカムラ カズヒロ		名古屋大学医学系研究科・教授	博士(医学)	生理学	教育担当	0.5	
8	高橋 義行	タカハシ ヨシユキ		名古屋大学医学系研究科・教授	博士(医学)	小児科学	教育担当	0.5	
9	西川 博嘉	ニシカワ ヒロヨシ		名古屋大学医学系研究科・教授	博士(医学)	免疫学、腫瘍学	研究指導担当	0.5	
10	川嶋 啓揮	カワシマ ヒロキ		名古屋大学医学系研究科・教授	博士(医学)	消化器内科学	教育担当	0.5	
11	榎本 篤	エノモト アツシ		名古屋大学医学系研究科・教授・副研究科長(研究・産学官連携担当)	博士(医学)	実験病理学	教育担当	1	
12	桐生 寿美子	キリュウ スミコ		名古屋大学医学系研究科・教授・副研究科長(ダイバーシティ担当)	博士(医学)	神経科学	教育担当	0.5	
13	Itzel BUSTOS	イツェル ブストス		名古屋大学医学系研究科・講師	博士(医学)	がん免疫学	国際連携担当	0.5	
14	山中 宏二	ヤマナカ コウジ		名古屋大学環境医学研究所・教授 名古屋大学・副総長	博士(医学)	病態神経科学	研究指導担当	0.5	
15	竹本 さやか	タケモト サカ		名古屋大学環境医学研究所・教授	博士(医学)	分子神経科学	運営委員会委員	0.5	
16	萩 朋男	ハギ トモオ		名古屋大学環境医学研究所・教授	博士(理学)	人類遺伝学 分子生物学	教育担当	0.5	
17	菅波 孝祥	スガナミ タカヨシ		名古屋大学環境医学研究所・教授	博士(医学)	内分泌・代謝学	研究指導担当	1	
18	林 良敬	ハヤシ ヨシタカ		名古屋大学環境医学研究所・教授・所長	博士(医学)	内分泌代謝学	教育担当	0.5	
19	寶珠山 稔	ホウシヤマ ミル		名古屋大学医学系研究科・教授	博士(医学)	臨床神経生理学、 脳科学	運営委員会委員	0.5	
20	中柄 昌弘	ナカボネ マサヒロ		名古屋大学医学系研究科・准教授	博士(工学)	パレオゲネティクス・ 生物統計	研究指導担当	0.5	
21	松井 佑介	マツイ ユウスケ		名古屋大学医学系研究科・准教授	博士(情報科学)	統計・情報科学	教育担当	0.5	
22	亀高 諭	カメタカ タロウ		名古屋大学医学系研究科・教授	博士(学術)	細胞生物学	教育担当	0.5	
23	佐藤 光夫	サトウ ミツオ		名古屋大学医学系研究科・教授	博士(医学)	呼吸器内科学・腫瘍生物学	研究指導担当	0.5	
24	石川 哲也	イシカワ テツヤ		名古屋大学医学系研究科・教授・副研究科長	博士(医学)	生体分子情報科学	運営委員会委員	0.5	
25	新家 一輝	ニイミ カズテル		名古屋大学医学系研究科・教授	博士(看護学)	次世代育成看護学	研究指導担当	0.5	
26	星野 藍子	ホシノ アイコ		名古屋大学医学系研究科・講師	博士(社会福祉)	作業療法科学	研究指導担当	0.5	
27	井口 洋平	イグチ ヨウヘイ		名古屋大学医学部附属病院・講師	博士(医学)	神経内科学	教育担当	0.5	
28	内田 広夫	ウチダ ヒロオ		名古屋大学医学系研究科・教授	博士(医学)	小児外科学	研究指導担当	0.5	
29	和氣 弘明	ワケ ヒロアキ		名古屋大学医学系研究科・教授	博士(医学)	分子細胞学	運営委員会委員・産学官連携担当	0.5	
30	白鳥 義宗	シラトリ ヨシムネ		名古屋大学医学部附属病院・病院教授	博士(医学)	病院・医療管理学	医療情報科学担当	0.5	
31	藤原 道隆	フジワラ ミチカ		名古屋大学医学系研究科・特任教授	博士(医学)	消化器外科学	教育担当	0.5	

14 プログラム担当者一覧（続き）								
氏名	フリガナ	年齢層	機関名・所属(研究科・専攻等)・職名	学位	現在の専門	役割分担	ポート 割合	
32	池田 匡志	イケダ マサシ	名古屋大学医学系研究科・教授	博士(医学)	精神医学	研究指導担当	0.5	
33	鈴木 洋	スズキ ヒロシ	名古屋大学医学系研究科・教授	博士(医学)	分子腫瘍学	研究指導担当	0.5	
34	加藤 昌志	カトウ マサシ	名古屋大学医学系研究科・教授	博士(医学)	環境労働衛生学	研究指導担当	0.5	
35	宮田 卓樹	ミヤタ タカキ	名古屋大学医学系研究科・教授	博士(医学)	細胞生物学	研究指導担当	0.5	
36	清井 仁	キヨイ ヒトシ	名古屋大学医学系研究科・教授	博士(医学)	血液・腫瘍内科学	研究指導担当	0.5	
37	豊國 伸哉	トヨクニ シンヤ	名古屋大学医学系研究科・教授	博士(医学)	生体反応病理学	研究指導担当	0.5	
38	岡島 徹也	オカシマ テツヤ	名古屋大学医学系研究科・教授	博士(医学)	分子細胞化学	研究指導担当	0.5	
39	今釜 史郎	イマカマ シロウ	名古屋大学医学系研究科・教授	博士(医学)	整形外科学	産学官連携担当	0.5	
40	黒田 啓介	クロダ ケイスケ	名古屋大学医学系研究科・准教授	博士(医学)	神経薬理学	運営委員会委員・推進室担当	9.7	
41	濱口 知成	ハマグチ トモナリ	名古屋大学学術研究・産学官連携推進本部・特任講師	博士(医学)	ゲノム生物学	メンター担当・産学官連携担当	9.8	
42	横井 聡	ヨコイ サトシ	名古屋大学医学系研究科・准教授	博士(医学)	神経内科学	教育担当	9.7	
43	深見 祐樹	フカミ ユウキ	名古屋大学医学系研究科・特任助教	博士(医学)	神経内科学	メンター担当	9.7	
44	宇野 光平	ウノ コウヘイ	名古屋大学医学系研究科・助教	博士(人間科学)	統計学	メンター担当	5	
45	遠藤 史人	エントウ シヒト	名古屋大学環境医学研究所・特任講師	博士(医学)	病態神経科学	メンター担当	0.5	
46	永田 健一	ナガタ ケンイチ	名古屋大学医学系研究科・特任講師	博士(医学)	機能組織学	メンター担当	3	
47	竹田 育子	タケタ イコ	名古屋大学医学系研究科・准教授	博士(医学)	分子代謝医学	メンター担当	1	
48	神田 容	コウダ ヒロ	名古屋大学医学系研究科・特任助教		分子代謝医学	メンター担当・推進室担当	9.7	
49	島村 司	シマムラ ツカサ	名古屋大学医学系研究科・特任助教	博士(医学)	細胞生物学	メンター担当・推進室担当	9.7	
50	深井 昌克	フカイ マサカツ	名古屋大学学術研究・産学官連携推進本部・特任教授(非常勤)		政治学・国際関係論	産学官連携担当	9.5	
51	廣明 秀一	ヒロアカ ヒデカズ	名古屋大学創薬科学研究科・教授	博士(薬学)	物理系薬学	運営委員会委員	0.5	
52	饗場 浩文	アライ ヒロフミ	名古屋大学創薬科学研究科・教授	博士(農学)	分子生物学	教育担当	1	
53	人見 清隆	ヒトミ キヨタカ	名古屋大学創薬科学研究科・教授	博士(農学)	応用生物化学	教育担当	2	
54	加藤 竜司	カトウ リュウジ	名古屋大学創薬科学研究科・准教授	博士(工学)	医用工学、画像解析、データサイエンス	教育担当	0.5	
55	日比野 絵美	ヒビノ エミ	名古屋大学創薬科学研究科・助教	博士(薬科学)	生物物理学	メンター担当	4	
56	田中 健二郎	タナカ ケンジロウ	名古屋大学創薬科学研究科・助教		細胞分子情報学	メンター担当	0.5	
57	大嶋 篤典	オオシマ アツリ	名古屋大学細胞生理学研究センター・教授	博士(理学)	構造生物学	教育担当	1	
58	兒玉 哲也	コタマ テツヤ	名古屋大学創薬科学研究科・准教授	博士(薬学)	核酸化学、医薬化学	教育担当	0.5	
59	村瀬 勉	ムラセ ツトム	名古屋大学情報基盤センター・教授	博士(情報科学)	情報システム学	教育担当	0.5	
60	戸田 智基	トダ トモキ	名古屋大学情報基盤センター・教授	博士(工学)	知能システム学	教育担当	0.5	
61	片桐 孝洋	カタギリ タカヒロ	名古屋大学情報基盤センター・教授	博士(理学)	高性能計算	教育担当	0.3	
62	森 健策	モリ ケンサク	名古屋大学情報学研究科・教授	博士(工学)	情報科学	運営委員会委員	0.5	

14 プログラム担当者一覧（続き）								
氏名	フリガナ	年齢層	機関名・所属(研究科・専攻等)・職名	学位	現在の専門	役割分担	IP/OT(割合)	
63	石川 佳治	イシカワ ヨシハル	名古屋大学情報学研究所・教授	博士(工学)	データベース・データ工学	教育担当	0.5	
64	工藤 博章	クドウ ヒロアキ	名古屋大学情報学研究所・准教授	博士(工学)	知覚情報処理	教育担当	0.5	
65	松原 茂樹	マツバラ シゲキ	名古屋大学情報基盤センター・教授	博士(工学)	自然言語処理	教育担当	0.5	
66	佐藤 ちひろ	サトウ チヒロ	名古屋大学糖鎖生命コア研究所(統合生命医科学糖鎖研究センター)、生命農学研究科・教授	博士(理学)	糖鎖生物学、糖鎖生物学、生物化学	運営委員会委員	1.5	
67	中野 秀雄	ナカノ ヒデオ	名古屋大学生命農学研究科・教授	博士(工学)	抗体工学、タンパク質工学、バイオインフォマティクス	教育担当	0.5	
68	Maturana Andres	マツラナ アンドレス	名古屋大学生命農学研究科・准教授	博士(理学)	電気生理学、細胞生物学	教育担当	1	
69	羽根 正弥	ハネ マサヤ	名古屋大学糖鎖生命コア研究所(統合生命医科学糖鎖研究センター)、生命農学研究科・助教	博士(農学)	機能生物化学	メンター担当	5	
70	吉田 安子	ヨシダ ヤスコ	名古屋大学未来社会創造機構・予防早期医療創成センター・特任教授	博士(工学)	PIR基づく予防早期医療社会システム	教育担当	0.5	
71	丸山 光生	マルヤマ ミツオ	国立長寿医療研究センター研究所ジェロサイエンス研究センター・センター長	博士(医学)	分子免疫老化学、基礎老化学	教育担当	0.5	
72	木村 泰之	キムラ ヤスユキ	国立長寿医療研究センター研究所・認知症先進医療開発センター・脳機能画像診断開発部・副部長	博士(医学)	脳神経核医学	教育担当	0.5	
73	重水 大智	シゲミズ タケイ	国立長寿医療研究センター研究所・メディカルゲノムセンター・バイオインフォマティクス研究部・部長	博士(理学)	ゲノム医学、遺伝統計学、人工知能	教育担当	0.5	
74	吉田 亮	ヨシダ リョウ	統計数理研究所・先端データサイエンス研究系・教授	博士(学術)	統計科学	教育担当	0.5	
75	藤澤 洋徳	フジザワ ヒロリ	統計数理研究所・統計基盤数理研究系・教授	博士(理学)	統計科学	教育担当	0.5	
76	永田 浩一	ナガタ コウイチ	愛知県医療療育総合センター発達障害研究所・所長	博士(医学)	発達障害の分子病態解析	教育担当	1	
77	浅井 真人	アサイ マサト	愛知県医療療育総合センター発達障害研究所・障害モデル研究部長	博士(医学)	てんかん、実験病理学、神経内分泌	教育担当	1	
78	井本 逸勢	イモト イッセイ	愛知県がんセンター研究所・所長	博士(医学)	分子遺伝学、ゲノム医科学	教育担当	0.5	
79	山口 類	ヤマガチ ルイ	愛知県がんセンター研究所・システム解析学分野・分野長	博士(理学)	メディカルバイオインフォマティクス	教育担当	0.5	
80	松尾 恵太郎	マツオ ケイタロウ	愛知県がんセンター研究所・がん予防研究分野・分野長	博士(医学)	がん疫学・分子疫学	教育担当	0.5	
81	衣斐 寛倫	エビ ヒロシ	愛知県がんセンター研究所・がん標的治療トランスレーションナリサーチ分野・分野長	博士(医学)	腫瘍内科学	教育担当	0.5	
82	田口 歩	タグチ アユム	愛知県がんセンター研究所・分子診断トランスレーションナリサーチ分野・分野長	博士(医学)	がん分子病態診断学	教育担当	1	
83	鍋倉 淳一	ナベクラ ジュンイチ	生理学研究所・所長	博士(医学)	神経生理学	教育担当	0.5	
84	吉村 由美子	ヨシムラ ユミコ	生理学研究所・基盤神経科学研究領域・教授	博士(医学)	神経生理学	教育担当	0.5	
85	定藤 規弘	サダトウ ノリヒロ	生理学研究所・研究連携センター・特任教授	博士(医学)	システム脳科学	教育担当	0.5	
86	磯田 昌岐	イソダ マサキ	生理学研究所・システム脳科学研究領域・教授	博士(医学)	システム神経生理学	教育担当	0.5	
87	北城 圭一	キタシロウ ケイイチ	生理学研究所・システム脳科学研究領域・教授	博士(教育学)	計算論的神経科学	教育担当	1	
88	石田 秀治	イシダ ヒデハル	岐阜大学応用生物科学部・招へい教員	博士(理学)	生理活性物質学	運営委員会委員	0.2	
89	鈴木 健一	スズキ ケンイチ	岐阜大学糖鎖生命コア研究所・教授	博士(工学)	細胞生物物理学	研究指導担当	0.8	
90	安藤 弘宗	アンドウ ヒロムネ	岐阜大学糖鎖生命コア研究所・教授	博士(農学)	生物有機化学	教育担当	0.5	
91	木塚 康彦	キヅカ ヤスヒコ	岐阜大学糖鎖生命コア研究所・教授	博士(薬学)	糖鎖生物学、生化学	教育担当	0.2	
92	上野 義仁	ウエノ ヨシヒト	岐阜大学応用生物科学部・教授	博士(理学)	生物有機化学	教育担当	0.2	

14 プログラム担当者一覧（続き）							
氏名	フリガナ	年齢層	機関名・所属(研究科・専攻等)・職名	学位	現在の専門	役割分担	ポイント(割合)
93	矢部 富雄	ヤヘ トモ	岐阜大学応用生物科学部・教授	博士（農学）	食成分機能化学	運営委員会委員	0.5
94	中川 香澄	ナカガワ カスミ	岐阜大学応用生物科学部・助教	博士（工学）	食品発酵学	研究指導担当	0.5
95	岩本 慎一	イワモト シンイチ	株式会社島津製作所・田中耕一記念質量分析研究所・副所長	博士（学術）	質量分析学	企業連携担当	0.5
96	原 健記	ハラ タケキ	ノバルティス ファーマ株式会社・エクスターナル イノベーション推進室・室長	博士（薬学）、MBA	新薬シーズ探索	企業連携担当	1
97	丹 愛彦	タニ ナルヒコ	NVIDIA（エヌビディア）合同会社・ディープラーニングソリューションアーキテクト	博士（工学）	並列計算、数値流体力学	企業連携担当	0.1
98	山崎 和博	ヤマザキ カズヒロ	NVIDIA（エヌビディア）合同会社・ディープラーニングソリューションアーキテクト	修士	GPUによる機械学習の実行支援・修士	企業連携担当	0.1
99	吉村 祐太	ヨシムラ ユウタ	エーザイ株式会社・メディカル本部・本部長（執行役員）	博士（医学）	医薬品を用いた臨床および基礎研究	企業連携担当	0.5
100	増田 芳子	マサダ ヨシコ	オリンパス株式会社・HRビジネスパートナー	博士（農学）	タレントマネジメント	企業連携担当	0.5
101	村川 正男	ムラカミ マサオ	名古屋大学環境医学研究所・ラクオリア創薬産学協同研究所薬効解析部門兼トランスレーショナル研究部門・特任准教授	博士（理学）	創薬研究	企業連携担当	0.5
102	石山 健夫	イシヤマ タテオ	住友ファーマ株式会社・R&D本部・CNS創薬研究ユニット長	博士（理学）	創薬研究	企業連携担当	0.5
103	増井 秀昭	マスイ ヒデアキ	田辺三菱製薬株式会社・開発・メディカル本部・主幹	修士（医科学）	精神薬理学・精神医学	企業連携担当	0.5
104	上口 英則	カミグチ ヒデアノリ	武田薬品工業株式会社・プレクリニカル&トランスレーショナルサイエンス 薬物動態研究所・シニアディレクター	博士（生物科学）	創薬研究	企業連携担当・教育担当	0.5
105	熊野 峻	クマノ シュン	株式会社日立製作所・研究開発グループ・ヘルスケアイノベーションセンタ・主任研究員	博士（工学）	希少性・難治性がん解析	企業連携担当	0.5
106	今村 雅一	イマムラ マサカズ	アステラス製薬株式会社・オンコロジーリサーチサーチオペレーションズ・エグゼクティブディレクター	博士（理学）	創薬化学	企業連携担当	0.5
107	Agnes Arthur	アグネス アーサー	Lecturer, School of Biomedicine, Faculty of Health and Medical Sciences, University of Adelaide	PhD	Molecular and Biomedical Science	国際連携担当 (JDP)	0.5
108	David Gisselson Nord	デイビッド ギッセルソン ノード	Professor, Vice Dean, Faculty of Medicine, Lund University	PhD	Clinical Genetics	国際連携担当 (JDP, GAME)	0.5
109	Christoph Peters	クリストフ ピーターズ	Professor, Institute of Molecular Medicine and Cell Research, University of Freiburg	MD	Molecular Medicine	国際連携担当 (JDP)	0.5
110	Nigel Mongan	ナイジェル モンガン	Professor, Faculty of Medicine and Health Sciences, University of Nottingham	MD, PhD	Oncology	国際連携担当 (GAME)	0.5
111	Philip Chiu	フィリップ チュウ	Professor, Dean, Faculty of Medicine, Chinese University of Hong Kong	MD	Gastrointestinal surgery	国際連携担当 (GAME)	0.5
112	Fabrizio De Ponti	ファブリツィオ デ ポンティ	Professor, School of Medicine, University of Bologna	MD, PhD	Medical and Surgical Sciences	国際連携担当 (GAME)	0.5
113	Alexander Gerbes	アレクサンダー ジャーベス	Professor, Faculty of Medicine, LMU Munich	MD	Internal Medicine	国際連携担当 (GAME)	0.5
114	SungBom Pyun	ソンボン ヒュン	Professor, Dean, College of Medicine, Korea University	MD, PhD	Rehabilitation Medicine	国際連携担当 (GAME)	0.5
115	Christina Mitchell	クリスティーナ ミッチェル	Professor, Academic Vice-President and Dean, Faculty of Medicine, Nursing and Health Sciences, Monash University	FRACP, FRCPA, PhD	Biochemistry and molecular biology	国際連携担当 (GAME)	0.5
116	Robert Lobning	ロバート ロブニング	CEO, Center for Biomarker Research in Medicine, Cbmед	PhD	Telecommunication and Electronics	国際連携担当 (Cbmed)	0.1

**成果の概要【2ページ以内】**

成果の概要として、①特筆すべき成果のあった事項、②計画通り進んでいる事項、③改善が必要な事項、④プログラムとしての今後の見通しを簡潔に記載してください。

**① 特筆すべき成果のあった事項**

**大学院全体の改革**：本プログラム（CIBoG）を始め4つの卓越大学院プログラムが一体となって名古屋大学の大学院教育の改革を推進し、研究科を越えた特色ある博士人材の育成を推進する体制が構築された。その中で、学生の融合研究・国際共同研究への挑戦や経済・キャリア支援を目的として、令和3年度より融合フロンティアフェロシップ事業および融合フロンティア次世代研究事業が開始され、令和6年度にはメイク・ニュー・スタンダード次世代研究事業（MNS事業）として発展的に統合された。MNS事業にはCIBoGが牽引する情報生命医学の他、ライフスタイル革命やアジア未来創造などの文理融合分野を含む7つの学際分野が設定され、幅広い分野の学生の交流や育成を全学でサポートする体制が構築された。

**多様性を涵養する教育体制の構築**：名古屋大学では、データ科学を学部から大学院までシームレスに教育するために数理・データ科学教育研究センターを設置しているが、特に生命医科学領域におけるデータ科学教育についてはCIBoGが担ってきた。令和6年度には、センターを数理・データ科学・人工知能教育研究センターに改組し、AIの重要性の高まりに対して全学レベルで対応する体制を整備した。研究やキャリアパスに関する交流の場としてリトリートと名古屋大学100人論文を提供するとともに、参画企業の担当者による企業一卓越学生間の若手研究者討論会および企業研究所への訪問を行った。各企業・機関の学外担当者や関係者が継続的・密接に履修生の活動に関与し、最終評価（Final QE）においても企業およびアカデミアの外部評価委員が評価を行った。履修生にとっては、プログラムの活動を通して様々な分野の担当者と長時間・緊密に触れ合う機会があり、在学中から多様なキャリアパスの可能性を探ることができる体制を構築することができた。また、スタートアップについては、CIBoGにおける取組を包含し、より体系的・戦略的な支援を実現するために、令和7年度に東海国立大学機構の直轄組織としてスタートアップ統括室が設置された。

**グローバル人材の育成**：本プログラムのグローバルアライアンスを活用した国際性教育を実施した。パンデミック終息後の令和4年1月にはGAME（Global Alliance of Medical Excellence）の国際プラットフォームを活用したバイオイノベーションのオンラインハンズオンを実施した。その後も、GAME Annual Meetingでの学生発表、米国Stanford大学との合同シンポジウム・ワークショップ、さらには医工連携、アントレプレナーシップに関するノースカロライナ大学への訪問研修など国際性を育むプログラムを実施した。さらに、令和6年12月には1週間かけて米国ボストンを訪問し、製薬企業（Biogen, Novartis, Astellas, Alnylam, Takeda）およびアカデミア（MIT Koch Institute）において研究者と直接ディスカッションを行う機会を提供した。これらの取り組みが、卒業生のうち2名が海外の研究機関に就職することにつながった。それ以外の卒業生の中には、自ら国際シンポジウムをオーガナイズしたり、海外の研究者を国内に招へいした者もあり、国際的リーダーシップを発揮する人材を育成することができた。

**卓越人材の育成**：これまでに本プログラムの卒業生25名はいずれも高いレベルの研究を行い、その成果を報告している。国際誌での査読付き論文発表（受理）240本、国際学会での発表139題、国内学会での発表412題、学会等での受賞83件（うち8件が国際賞）など、プログラム申請当初の目標を超える成果が得られた。修了生25名の進路は、13名（52%）がアカデミア研究者、6名（24%）が企業研究者、3名（12%）が企業データサイエンティスト、3名（12%）が病院である。2大学、4キャンパス、6研究科が参画する本プログラムならではの多様な人材を輩出することができた。特筆すべきは、生命医科学を専門にしていた3名がデータサイエンティストとしての道を選んだことであり、本プログラムがこれまでとは異なるキャリアパスの構築に貢献できたことの証左の一つと考えられる。

## ② 計画通り進んでいる事項

**学生とプログラムの質保証**：全履修生に対し2名のメンター教員を配置し、デュアルメンターによる指導を実現した。年2回以上の面談やアンケートを実施することで、履修・研究の進捗を確認し、プログラムに関する相談や要望を受けている。メンター教員が把握した内容はメンター教員会議で共有され、メンター教員同士での議論や調整に生かされているのみならず、運営委員会でも共有されプログラム全体の課題抽出や改善につなげられている。プログラムの質保証については、参加企業や学外研究機関の関係者を学位審査委員に加えることで、学外の視点から有用なアドバイス及び評価を適宜得ている。令和6年1月には6名の外部評価委員による外部評価を実施し、高い評価を受けた。

**情報学と生命医科学の融合教育**：本プログラムの目的は、情報学と生命医科学を修養し、世界のリーダーとして個別化予防を創造し、社会実装する研究者の育成である。生命医科学系の修士生の全員がオミックス、イメージング、数理モデルなどの情報学を学び、それを自らの研究に利活用することができた。それを実現したのは、プログラム独自の「デジタル生命医科学」を必修とし、生命医科学と情報学の融合を可能としたこと、およびカリキュラム内に情報科学解析に必須であるデータ解析のためのプログラミング演習、機械・深層学習、バイオインフォマティクスの実習を構築したことがあると思われる。一方、情報系の学生は解剖学実習や xR センター見学などを通じて実際に医学の研究に触れることができ、さらに、多くの修了生が名古屋大学大学院医学系研究科の教員との共同研究を通じて、患者データの解析を行うことができている。修了生の中には、自らの研究成果を企業との共同研究による機器開発へと展開するなど、異分野融合を社会実装につなげる者も出てきており、プログラム開始時の目標が着実に達成され、さらに進展していると言える。

## ③ 改善が必要な事項

**社会人のリカレント教育**：本プログラムに企業などに勤務する社会人にも参加してもらい、履修生とともに教育を受けていただけるよう、科目等履修生などの体制を整えたが、その活用は不十分である。講義の時間や参加方法を工夫し、創薬・医療機器開発・情報などに携わる社会人が生命医科学や情報学を学びなおしできる仕組みを構築する必要がある。このため、令和7年度には、連携協定に基づいて企業研究者がより容易に CIBoG の講義を受講できる体制を整備した。

## ④ プログラムとしての今後の見通し

名古屋大学は、指定国立大学構想に基づき、博士機構が中心となって全学的な研究科横断型の大学院教育研究体制の構築を進めてきた。CIBoG を始めとした4つの卓越大学院プログラムは、この博士機構が推進する大学院改革の一翼を担うものであり、大学院教育改革推進に資する取り組みとしてその事業を継続していく。この流れをさらに加速させるために、名古屋大学は総長のリーダーシップのもと令和6年度に博士機構の改組を行い、6つのリーディングプログラムと4つの卓越大学院プログラムを博士機構の大学院改革・社会連携部門に集約させた。このことにより、プログラム間の連携を強化し、プログラムで得られた成果を学内でより効果的に還元する体制を構築した。令和6年度には MNS 事業や TokAI BOOST が創設され、これらは学生の経済支援や融合研究・国際共同研究の支援を通して CIBoG の活動をサポートする。生命医科学と情報学の共通プラットフォーム形成に向けた教育、国際性・多様性の実装に向けた教育は、CIBoG 終了後も医学系研究科を中心に、参画する研究科と博士機構との連携のもとに継続する。学生支援は、新たに設置した卓越大学院・医学研究者養成推進室を中心に、国際連携室とも連携して継続する。大学院教育の基盤機関である博士機構は、カリキュラム、キャリアパス、経済支援などの面で支援を後押しする。カリキュラムの多くは医学系研究科の大学院履修科目もしくは博士機構の進める博士人材育成教育の一部として継承されるが、補助期間終了後に経費負担が必要となるカリキュラムや運営経費については医学系研究科および大学（博士機構）の独自資源で予算措置されることが決定している。産学連携収入増加などにより、プログラム継続性の財政的基盤は強化されており、CIBoG のレガシーを今後の大学院教育において継承し発展させることができると考えられる。